

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	プログラミング I A	
科目基礎情報							
科目番号	0026			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	「新・明解C言語入門編」柴田望洋 著 (ソフトバンク・パブリッシング)						
担当教員	長峯 祐子,江原 史朗						
到達目標							
講義と演習を通してC言語の基本的なプログラミング技術を習得することを目的とする。 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 基本的なプログラムの作成・実行ができる。 (2) C言語の各構文について説明できる。 (3) コンパイル時・実行時に出力されるメッセージの内容を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	自身で応用課題を設定し、課題を解決するプログラムを作成・実行できる。		教科書に掲載されている発展課題のプログラムを作成・実行できる。		基本的なプログラムの作成・実行ができる。		基本的なプログラムの作成・実行ができない。
評価項目2	C言語の各構文について理解し、応用的なプログラムを作成できる。		C言語の各構文について理解し、基礎的なプログラムを作成できる。		C言語の各構文について理解できる。		C言語の各構文について理解できない。
評価項目3	コンパイル時・実行時に出力されるメッセージの内容を説明でき、種々のエラーに対処できる。		コンパイル時・実行時に出力されるメッセージの内容を説明でき、初歩的なエラーに対処できる。		コンパイル時・実行時に出力されるメッセージの内容を説明できる。		コンパイル時・実行時に出力されるメッセージの内容を説明できない。
学科の到達目標項目との関係							
教育目標 (B)							
教育方法等							
概要	第1, 2学期開講 C言語の基本技術として、配列、文字列、関数を学習する。						
授業の進め方・方法	本講義は、1回当たり4単位時間連続して講義と演習を実施する。初めにホームルームにおいて解説を行った後、情報処理演習室でプログラミング演習を行う。コンピュータ、ネットワークの利用についてはマナーを守ること。ホームルームからの移動は速やかに行い、遅れないようにすること。						
注意点	教科書を持参し、細部について参照ながら理解を深めること。また、教科書の授業内容の範囲を熟読し、復習しておくこと。 演習が時間内に終了しない場合もあり得るが、放課後などを利用して実施し、期限までに必ず提出できるようにすること。 課題レポートの提出期限は厳守すること。原則、再試験は実施しない。 プログラミングが得意な学生は、与えられた課題をこなすだけで満足せず、追加課題を教員に求めること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・環境設定		シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・ C言語プログラムの作成、コンパイル、実行、エラー訂正、レポート作成ができる。		
		2週	1 年次の復習(1)		出力と変数、入力、条件分岐および繰り返しについて、基本的なプログラムが作成できる。		
		3週	1 年次の復習(2)		入れ子になったfor文やwhile文・do文に関する演習問題を通して、多重ループを用いたプログラムが実行できる。		
		4週	配列(1)		配列について学習し、プログラムが作成できる。		
		5週	配列(2)		配列について学習し、プログラムが作成できる。		
		6週	2次元配列		2次元配列について学習し、プログラムが作成できる。		
		7週	文字列		文字列について学習し、プログラムが作成できる。		
		8週	定期試験				
	2ndQ	9週	試験返却		試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、正しい解答を説明できる。		
		10週	関数の基本		関数を定義する方法について学習し、簡単な関数を作成できる。		
		11週	関数と変数		関数の引数、戻り値について学習し、指定された変数を入力する関数を作成できる。		
		12週	関数と配列		配列を引数とする関数を作成できる。		
		13週	関数と文字列		文字列を扱う関数を作成できる。		
		14週	応用演習(1)		前期で学習した内容を使って自分のオリジナルなプログラムを作成できる。		
		15週	応用演習(2)		前期で学習した内容を使って自分のオリジナルなプログラムを作成できる。		
		16週	定期試験、試験返却		試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、正しい解答を説明できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
知識の基本的な理解	35	0	0	0	0	15	50
思考・推論・創造への適用力	35	0	0	0	0	15	50
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0